

江の島に海の森『藻場』をとりもどそう

NPO法人江の島・フィッシャーメンズ・プロジェクト
江の島片瀬漁業協同組合

プロジェクト概略

江の島と言う地形はメリットとデメリットがはっきりしている地形です。南の風に強く、活動に支障をきたすことも多い立地です。しかし砂地の中に隆起した島である江の島は、島の両側に川があり、栄養素は川によって運ばれ、プランクトンの発生がおき、良い漁場とも言えます。この砂地に守られている区域の中で、しっかりとした藻場が形成されれば、周辺海域の藻場の安定にも繋がると考えています。約10年にわたり試行錯誤を繰り返した藻場保全もようやく、江の島に合った保全方法が確定してきました。

保護カゴの設置によるカジメの保護や、観測の視える化のための水温測定やカメラによる画像診断。新江ノ島水族館との協力によりカジメ培養にもチャレンジしています。スポアバック・カジメロープの設置は10年の経験値を活かして、より効果的な場所を選び設置する事ができます。10ポイントによる定点観測も行い、より良いポイントにはNo.プレートの設置など細かいモニタリングも行っています。

これらの活動により、ブルーカーボンの創出が見込める状況になり、安定的な収益を得ることは持続可能な活動ができます。そして漁業者にとっても、より良い漁場作りに繋がります。

活動概略



プロジェクトの特長・PRポイント

○かながわ海業モデル事業の選定
この事業に選定されたことにより、海藻専用の水槽・ダイビングステーションの設置ができ、さらに江の島片瀬漁業協同組合・藤沢市との共同体の設立は活動を充実させました。

○新江ノ島水族館との連携
徒歩3分の新江ノ島水族館とは、漁協として魚の納品を始め、海底清掃・藻場保全・体験学習など多岐にわたり協力体制を取っています。

○充実した啓蒙活動
学校・企業に対しての体験学習・『江の島の海を守ろうフェスタ』・養殖ワカメの種付け・刈取り体験など、様々な啓蒙活動の延べ参加者数は1万人を超えています。

○湘南・江の島の知名度を生かす
全国レベルの知名度が大きな強みです。協力企業・共同実験など年々増えているのは、この知名度が効果的であると推測できます。また3社のダイビングショップとの連携も活動のプラス要素です。

○環境省『自然共生サイト30by30』
藻場だけでなく、ソフトコーラルの生息も多く、共生サイトへの申請中。これにより保全活動のアピールができると共にソフトコーラルは、ダイバーの注目を得る事ができるため、ecoダイビングの開催を行う事は、藻場保全に欠かせないダイバーの発掘に繋がります。

活動概略風景



活動地区